

[メッセージ]

この夏、越後妻有の美しい里山を舞台に、「越後妻有こどもサマーキャンプ～明日へのフォーラム」を開催します。1500年ものながきにわたり農業を通し大地とかかわってきた越後妻有の自然、人びとの暮らしのあり方は、地球環境時代に生きる私たちに、大きなヒントを与えてくれます。このサマーキャンプは、越後妻有で展開される、冬と雪を友だちとした「夏耕冬読」をコンセプトとした大人とこどものための新しい学校「明日へのフォーラム」の第一弾でもあります。今回のプログラムが、どんな時、どんなところでも生きてゆく知恵をもち、勇気と好奇心と素直さをもったこどもたちを育むフォーラムの始まりとなってくれたら、こんな嬉しいことはありません。

———「明日へのフォーラム」校長 北川フラム

里山から学ぶ

今回のサマーキャンプでは、「土」「農業」「環境」の3つのテーマを通して里山を学び、体験します。

◆第1日「土ってすごい」

地球は岩石の星。水によって岩石が土になり、そこから生命が生まれました。田んぼも、やきものも、建物も、アートも土から生まれます。そんな土の可能性を探求します。



◆第2日「農業って面白い」

お百姓さんの仕事はお米や野菜をつくるだけではありません。日本の国土や自然をつくり守っているのです。農が生み出すばかり知れない恵みと知恵を学びます。



講師：宇根豊（農と自然の研究所代表理事）  
1950年生まれ。NPO法人農と自然の研究所代表理事。農学博士。福岡県庁時代、減農薬運動を提唱し定着させた。現在は百姓をしながら環境作物の開発に取り組む。こどもの教育と文化を育む場として「田んぼの学校」も主宰する。



講師：北川フラム（大地の芸術祭総合ディレクター）

1946年生まれ。アートディレクター。「ガウディ展」「子どものための版画展」「アバウトヘイト否！国際美術展」など全国巡回展やパブリックアートを企画実行。越後妻有の地域づくりに10年以上かかわり、大地の芸術祭総合ディレクターを務める。

◆第3日「里山ってなに」

農を介した人と自然とのかかわりのなかで育まれてきた里山。里山に展開される生き物たちの世界から、地球規模の環境問題を見つめます。



渡辺泰幸（アーティスト）

1969年生まれ。アーティスト。野焼きの手法で陶器製の叩いて音の出る作品を発表、大地の芸術祭やINAX 世界のタイル博物館展などの大規模なインスタレーションを行う。こどもたちとの陶製楽器作りワークショップや作品演奏会も行ない、好評を博している。



講師：日鷹一雅（愛媛大学農学部附属農場准教授）

1959年生まれ。愛媛大学農学部附属農場准教授。学術博士（農業生態学、応用昆虫学）。農業と共生してきた生物たちの世界を通して、持続可能な農業のあり方、生態系の保全とそれを支える社会環境づくりを研究。また、現代GP「瀬戸内環境 ESD」で農山漁村の環境教育にも携わっている。

日程表

	午前					午後											
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
8月7日(火)									東京出発 (専用バス)		到着	夕食/歓迎会 自己紹介					就寝
8月8日(水)	起床/散歩 清掃/朝食				ワークショップ(1) 土ってすごい	昼食		アートワークショップ 里山かくれんぼ			風呂 夕食		夜の 自然探検				就寝
8月9日(木)	起床/散歩 清掃/朝食				ワークショップ(2) 農業って面白い	昼食		農業体験			手作り夕食 風呂(温泉)						就寝
8月10日(金)	起床/散歩 清掃/朝食				ワークショップ(3) 里山ってなに	昼食		キョロロ 自然探検/見学			夕食/風呂 お別れ会						就寝
8月11日(土)	起床/散歩 清掃/朝食				後片付け 閉会式	昼食		解散									
8月12日(日)	里山アートツアー(オプション)																

ツアー申し込み先

大地の祭り事務局「子どもサマーキャンプ係」

TEL:025-595-6310